

# Q7 交流及び共同学習は、どのように考えればいいですか。

## 1 交流教育及び共同学習の新たな展開

障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が学校教育の一環として活動を共にすることを交流及び共同学習と呼んでいます。

小学校及び中学校の学習指導要領には、「小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること」という内容が明示されています。

障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に参加する活動は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があるものと考えられます。「交流及び共同学習」とは、このように両方の側面が一体としてあることをより明確に表したものです。

## 2 交流及び共同学習をすすめる意義

交流及び共同学習をすすめるためには、障害のない児童生徒、障害のある児童生徒、お互いに意義のあるものでなければなりません。

障害のない児童生徒にとっては、交流及び共同学習を通して、人間のもっているすばらしい面に気づき、互いの共通点を認識することにより、自分の生活の姿勢や学習の態度を見直すよい機会となること、思いやりや、やさしさ、いたわりの心が育ち、違和感や偏見がなくなるとともに、同じ社会に生きる人間として互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合っていく基盤となるという意義があります。

障害のある児童生徒にとっては、生活経験を広げるよい機会となるとともに、集団生活の経験を通して社会性を育むことができるという意義があります。

## 3 交流及び共同学習をすすめるうえでの配慮事項

- (1) 特別支援学校の児童生徒と小・中学校等の児童生徒が、学校行事や学習活動等、直接活動を共にすることだけでなく、文通や作品の交換、インターネットを活用してコミュニケーションを深めるなど、間接的に活動を共にすることなど児童生徒の得意なこととを生かしつつ、幅広い体験をし、豊かな人間形成を図っていくようにする。
- (2) 特別支援学校と小・中学校等が事前に十分に連絡し合い、双方の教育課程に位置づけ、活動内容や方法を検討し、児童一人一人に応じた配慮を行う等、計画的、組織的に実施する。
- (3) 双方の学校で実施後に評価を行い、成果を確認するとともに改善点を明らかにし、継続した活動として実施する。
- (4) 実施状況を双方の学校の保護者や関係者に説明し、成果と課題について理解を求めるなどにより、家庭、地域社会との連携を深め、協力を得るように留意する。

## 4 障害に応じた配慮

### (1) 視覚障害

- ア 教材等を提示する場合、言葉での説明を添えるとともに、手で触って観察できるようにする。
- イ 「そこ」などの指示代名詞は避け、具体的に指示する。
- ウ 慣れない場所に行ったり、初めて体験したりするときには、最初に周囲の状況や活動内容を説明したりする。

### (2) 聴覚障害

- ア 子どもが話し手の方を向いている時に、話し手は、自分の顔全体、特に口元が見えるようにして話しかける。
- イ 補聴器で聞き取りやすいように、必ず声を出して話す。
- ウ 話を通じにくい場合には、子どもの手のひらに指でゆっくりと文字を書いたり、紙に書いたりして確認する。

### (3) 知的障害

- ア 興味・関心をもつことのできる活動を工夫する。
- イ 言葉による指示だけでなく、絵や写真を用いたりして、子どもたちが活動内容を理解しやすくする。
- ウ 繰り返しできる活動にしたり、活動の手順を少なくしたり、絵や写真などを用いて手順が分かりやすくなるようにしたりして、見通しをもちやすくする。

### (4) 肢体不自由

- ア 歩行を妨げたり、ぶつかったりしないよう注意する。
- イ 車いすや杖などを使用する子どもが困っている場合には、どのようにしたらよいかを尋ね、それぞれの子どもの合った方法で援助する。
- ウ 車いすを押す場合には、ゆっくり押すように心がける。

### (5) 病弱・身体虚弱

- ア 活動に当たっては、保護者、担当医、教師などに個々の子どもの病状などについて、活動する際の留意事項を確認する。
- イ てんかんや気管支ぜん息等の子どもは、発作のない時には他の子どもとほぼ同じ活動が可能であるが、過重な負担にならないようにする。
- ウ 病気によっては急に不調になることもあるので、活動中も体調の変化に十分注意するとともに個々の病状や体力に応じた活動を工夫する。

### (6) 言語障害

- ア 子どもにとっては、話すことが苦にならない楽しい雰囲気作りを行い、温かく思いやりのある好ましい人間関係を保つことができるような環境づくりをこころがける。
- イ 教師は、はっきりとしかもゆっくりと話すように努め、子どもの話に対しては、笑顔でうなずいたり、気持ちよく返事をしたりして、子どもが話し終わるまで丁寧に話を聞くようにする。
- ウ 吃音の子どもに対しては、急いで話したり、言い直すことも求めたり、話の途中で口をはさんだりすることがないようにする。

### (7) 自閉症・情緒障害

- ア 見通しがもてるように、計画された活動内容を視覚的な情報を活用し、事前に知らせるようにする。

- イ 相手の感情や考えを理解することが苦手な場合も多いことから、適切に子ども同士の関係を調整し、誤解によるもめごとが起こらないように留意する。
- ウ 集団活動に参加することが苦手な子どもが多いことから、少人数による活動から徐々に人数を増やしていったり、子ども同士の相性を考慮したりするなどの工夫をする。
- エ 聴覚や視覚などに強い過敏性が見られることから、騒がしい場所や蛍光灯の光、人との接触などを極端に苦手とする場合があることに留意する。

